


担当 エリア	C	居宅 1	名称	No 9	茶の間
-----------	---	------	----	---------	-----

エリア
全体の
概要や
特徴等

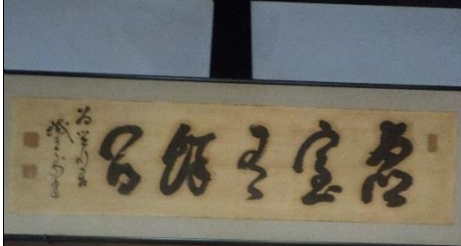

茶の間は居宅の中では最も広い部屋です。
家族や女の人は立ち入りを禁止されており、主人の部屋となっていました。

細部の
解説



戸の上にあるのは「らんま」と呼ばれる部屋に光を取り入れるためのものです。
味方には大正8年まで電気がなかったのでとても大切なものでした。

いろいろには「ろしょうじ」が置かれています。風が吹いて灰が飛ばされるのを防ぐ役割があります。

「虚室有余間」という言葉が書かれています。
何もない広い部屋にはゆとりがあるという意味です。
奥の戸の外にはこぞうさんがいて、用があるときはこぞうさんから主人に伝えていたそうです。